

ちまみ
血塗れでさ。ひと目見て「ああ、死んでるなこりゃ」と思ったよ。
それが、例の調書から視線を上げて話し始めた担当官の第一声だった。

GM：そんじゃ、次～。何かしたい方います？

秀真：えーと、調書を書いた担当者を訪ねるか。何気なく「おい、これ間違いじゃないのか」と。

GM：その調書について訊くんですね？ まぁ、日々事故を処理しているので一瞬分からなかったようですが、二枚の調書を並べて出されると「ああ～これかぁ！」という風に言いますね。

譲：(いきなり担当官になって)「ごつめ～ん、間違えたんだ」

秀真：一件、落着(笑)。

シナリオ、完。……………ってイヤちょっと待て。コラ。

GM：いや、間違えたわけじゃないんだな(苦笑)。彼が言うには……

「応援が来る前に救急車が来たから、現場は相棒に任せて、俺は付き添いとして乗ったわけだ。

で、乗ってすぐに救急隊員と確認したんだぜ？ 心停止。病院に着いても……誰がどう考えたって間に合わねえ。蘇生成功の連絡もなかったし、“死亡”事故として調書を提出した。……だけど」「だけど……？」

「背中にでっかい裂傷^{れっしょう}、全身に打撲・骨折^{だぼく} 包帯ぐるぐる巻きだよ。でも、確かに被害者は“生きて”いた。意識不明だったが、心電図も動いていたから間違いはない。慌てて調書を書き直したね」

トントンと被害状況の欄を指で叩くと、彼は「……始末書付きでな」と苦笑気味に付け足した。

GM：訂正したんでいいかと思いつつ、不審な感じ ということで一応前のも残しておいた、と。

譲：奇跡体験！ ア ビリーバボー！（笑）

桐子：(番組調で)あのとキトム(仮名)がいなかったら、ボクは今ここにいなかったね！（笑）

GM：(聞き流して)「いやぁ、何か他にもそんな話あったような気がするんだけどなぁ」

秀真：他にも、あった……？ よく分からないという顔をしながら「ああそうか、ありがとう」と。

譲：え？ 今のは“パーポニー一杯入ればもうちょっと何か出てくる”的なものじゃないの？(笑)

GM：そういうことではありません(苦笑)。ってか勤務中に酒飲むなぁッ(笑)。

譲：いや、酒場のお約束っていうか(笑)。

ここは交通課だ。

桐子：(突然バーテンになって)いやぁ、チップをいただければもうちょっと思い出すかも……。

秀真：鉛の弾ならどうだ？ と言いながらカシャッと……(銃を構えた音)。

GM：おいおい。鑑識官は通常、銃を携帯してないと思うぞ(笑)。

譲：(キャラクターシートを見て)大型拳銃持ってるんですけど、この人(苦笑)。

酒場のお約束 ファンタジーでは情報収集前の機嫌取り・袖の下に「酒をおごる」ことが少なくない。
鑑識官は～ おそらく待機時には所持していないと思われる。……少なくともF市警では(逃げ)。

秀真:(頭をかきながら)《ブラックマーケット》と繋がりがああるもんで(笑)。

.....^{じづら}字面だけだとダメダメな警察官である。

秀真:(突然話を戻して)ふむふむ、似たような事件があるのか。じゃあコネの警察幹部にでも、職場の端末からメールを送るぞ。《知識の泉》も使って、(ダイスを振る).....クリティカルして 20。

譲:フッ、私に勝るとも劣らない情報収集能力。

GM:何について、どんな感じで訊くのかな。

秀真:心肺停止後しばらく経って生き返ったというワケの分からん事例が何個あったのかいな、と。

譲:.....凄いフランクなメールだな。

秀真:(何故か胸を張って)これでも名家ですから!(笑)

名門、鶴来一族ではフランクな言葉遣いが主流らしい。

GM:じゃあ.....フランクなメールを送られた(苦笑)。待つことしばし、返事が返ってきます。それによれば、彼女の件以外に四ヶ月前に一件、半年前に一件、八ヶ月前に二件起こっていますね。

秀真:何だそりゃ!.....面倒になりそうな予感を察知して頭をかきながらはあ、とため息をつく。

英達:あああ、(演出が自分と)かぶってるよ(笑)。

秀真:じゃあ.....(不敵な笑みで)「面白えことになってきたぜ」と。

GM:(急変ぶりに目を剥いて)ええっ!? そ、そっちなの?

鶴来秀真二十八歳、自分を探して迷走中。

秀真:(さらっと流して)「ま、しゃーねえか」と言いながらついでに電話かけるか。宇佐美さんに。

桐子:(今にも死にそうな声で)し、**侵食率を上げないでェっ!?**

GM:今は電話をかけるだけかけておいて、後のシーンで合流ということにすればいいよ(苦笑)。

「死亡したと思わせるほどの重傷又は死亡確認、後に生存確認。^{はんそうさき}搬送先は“^{さいき}私立齋木病院”か」
この三点が、メールに添付されてきた五件の調書全てに共通する要素だ。秀真は顔をしかめて携帯電話を取り出した。呼び出すのは桐子の番号。彼女は若い^{ころういうこと}が、レネゲイト絡みでは頼りになる。
^{クロ}黒、だな.....

無意識のうちに滑り出した苦い^{すべ}眩きは、無機質な携帯電話の呼び出し音でかき消された。

* * *

桐子:(ぶつぶつと「の」の字を書いている譲に気がついて)ん? どしたの?

譲:.....^{あやしなまえ}齋木病院登場でひょっとしてUGNに頼ってくれないかなとか思っていただけだ(一同笑)。

秀真:(まったく聞いてなかった)あ? どうした?

.....寂しい男に合掌。ちん。

《ブラックマーケット》 市場の先読みなどで望みのアイテムを手に入れるノイマンのエフェクト。
《知識の泉》 あらゆる事象に精通する知識を情報収集の手助けとするノイマンのエフェクト。

大概の噂に耳聡い友人ですら知らない謎のゲーム “ Project Judgement ”。
その詳しい話を仕入れるために、英達は綾華を捜して昼休みの廊下を歩いていた。
もっとも、アイツのことだからなあ……。はあ、と息をついて、英達は彼女の肩を叩いた。

GM：どうする？

英達：幼馴染みは同じ学校の生徒だよな？ じゃ、捕まえてみよう。「咲島あ～」

GM：「何～？」

英達：このゲームってさあ、どんなゲームなの？ 俺、話聞いたことないんだけど。

GM：「ええとね……ゲーセンに置かれるような筐体型のタイプで あと、格ゲーなのっ」

英達：……え、じゃあお前もほとんど何も知らないわけ？

GM：「……………。(急に思い付いたように) ホラ、予備情報はない方が楽しいじゃん！」(笑)

英達：(諦めたような眼で虚ろに笑っている)

GM：「ナニよその超呆れた顔。なーに、何か言いたそうね？」

英達：「いいええ？ どーせ、いつものことだし？ ……じゃあいいよ、分あったよ」って帰る。

GM：「土曜日ね 土曜日ねっ！」

英達：分かってる分かっている(苦笑)。……お前の方こそ遅れんなっ。

物心つくつかないかの頃から振り回され続けているだけあって、結果は思った通りだった。

ま、謎のままご対面、つてのも面白いが……こりゃ、だいが咲島に毒されてるな。

内心でボヤきながら退屈な授業を受けた後、約束の時間五分前に英達は喫茶店のドアを開けた。

GM：「Cafe オレ様」……何回聞いても凄いインパクトだなあ(苦笑)。

譲：「Antique Cafe オレ様」へ先に行ってます。もうニコニコしながら待ってるよ(笑)。

オープニングで号泣していたのが嘘のようである。

……というか、いつの間にアンティークカフェになったんだ。

英達：ドアをからんから～ん と開けて、(譲を)見た瞬間「ふう……」って(笑)。

譲：では、“オレ様ブレンド”から顔を上げて。

英達：あそこ行きたくねえなあ……と思いつつ「待ち合わせなんで」って言って行く(泣&一同笑)。

桐子：(英達は)学生服なんだよね。そっちは？

譲：スーツじゃん？ ぱりとした。でもネクタイは水玉柄。

何故。

譲：あまつさえ赤と白。赤地に白の水玉だから。

桐子：何でだ！(笑)

いや、本当に。どんなセンスだ。

英達：てくてくとそのテーブルに行って……「よぉ」って、げんなりしながら向かいの席に座ろう。

譲：(満面の笑みで)“オレ様ブレンド”はなかなかイケるよ？ 試してみる？

英達：……………いや、珈琲コーヒー飲まねえし。

譲：飲まないのか、残念だ。風流を解さない人もいるものだな。

英達：(小声で)うるせえ、風流つつうんなら日本茶飲めツ。

譲：(聞き流して)パサッとメニューを置いて。「ま、見るといいよ。ここは…… UGN のおごりだ」

英達：お前じゃねえのかよ！(笑)

UGN の交際費で落とす気満点です、この人。

譲：(ニコニコと笑いながら)細かいことには気を使わない方がいい。

英達：じゃあ、適当に飲み物を注文し

譲：(遮って、やけにアメリカンな発音で)Hey！ Waiter ツ！(一同笑)

英達：(うんざりした顔で)……………帰ろっかなあぁ～……。

GM：やる気が削がれている(苦笑)。

「あのおさぁ、冗談はそのくらいにしてくれよ。……ハナシ依頼があるんだろ」

あまり好きな手合いではないが、英達は譲がただおどけるだけの馬鹿ではないと知っている。

「ああ、それもそうだな。では、本題に入るとしよう」

うっかり割ると真っ青になれそうな凝った意匠のアンティークカップを置き、彼は真顔に戻って話し始めた。

FH エージェント“見えざる神の手”の F 市侵入、友人の喪失　そして、目下の任務について。

譲：　というわけで、“見えざる神の手”なるエージェントについて調べているわけだ。

英達：……………って。俺、戦いはするけど情報収集はそっちの担当だろう？

譲：それはもちろん分かっているよ。だから、君に頼みたいのはだね。

英達：おう。

譲：私が核心を衝いたときに、一緒に来て戦ってくれる者が欲しいということだ。

英達：(諦めたような顔で)どうせそんなこったろうと思ったよ。

譲：(すました顔で)だいたい私には戦闘能力というものがないのだよ。ぐいっ(サムズアップ)。

GM：ぐいっ、じゃないだろ(笑)。

譲：とりあえず日曜あたりに色々手を回して調べてみようかと思うのだが。どうかな？

英達：(血を吐くような声を絞り出して)ごめっ……、日曜は先約が……ッ。

譲：ま、まあ……随分と苦しそうな話だが……良ければ聞かせてもらえるかな？

英達：(どこか虚ろな目で)やあ……ちょっと。ゲエ……ム、……さ。うん。……ははっ、ははっ……。

譲：(得心のいった顔で)……ああ、例の“カノジョ幼馴染み”か(笑)。……って知ってていいのかな？

GM：いいんじゃない？ 愚痴ってるかも知れないし(笑)。

英達：(流れるように)またアイツのお守りだよっしかも今度は一泊だけ一泊！ はあああああ。

譲：いっ……泊もかかるゲームのベータテストかね？ また随分大がかりなゲームもあったものだね。

英達：ゲームは楽しみなんだけどさあ。はああああ……っ。

GM：そこのところは洗脳されてるんだな(笑)。

桐子：女の子といっぱく　女の子といっぱく(外野からのヤジ)

サムズアップ　まず親指側を上にして拳を立て、次に力強く親指(サム)を立てれば(アップ)完成。

譲：……ということは、君は土曜日から動けないのか。

英達：ああ……土曜は夜からいねえから、何かあったら昼間にしてくれるか？ あ、携帯があるか。

譲：……通じるといいんだがね……。ちなみに、そのゲームの名前は？

英達：ええと……確か、“Project …… Judgement”、だ。何か進展があったら、連絡よろしく。

譲：そちらも妙な動きをしている奴がいるようなら伝えてくれたまえ。

英達：つまり こいのぼりを見たら、ということか（笑）。

いい加減そのネタから離れてください。

譲： それ以外でも、だ。どんな些細なことから、核心を衝く情報が引き出せるものなのだよ。

英達：だからさあ、俺にはどれが“情報”になるのか分からないんだって！

譲：……。相変わらず……………、いやっ、何でもないさ。駒というのは使い方次第だしな。

英達：（ふてた調子で）ああ、そーかい。じゃあ“駒”は動かなくてもいいかあ？

譲：（首を振りながら）誰に似てこうなったんだ。オ父サンハ悲シイヨ。

英達：うっせえ。お前に育てられた覚えはねえよ！

譲：（あっさり） **育てた覚えもないな。そういえば（笑）**

英達：……も、勘弁してよ……………。何で、俺の周りにはこんなヤツらばかりなんだ。

桐子：（大爆笑）

譲：フッ……同情するよ（自分もだとは欠片も思っていない）。まあ、珈琲でも飲みたまえ。

英達：だからいらねえつつってんだろ！（怒）

譲：（聞いていない）「ま、お疲れさま」とか言いながら彼の前に砂糖壺を。

英達：？（怪訝な顔をしている）

譲：（真顔で）疲れたときに糖分は重要だよ。

英達：うるっせえ！（笑）

何度目だか、叫んだ瞬間 ぎっ、……と眉根が寄るのが自分でも分かった。血管が切れそうだ。

ただの馬鹿ではないことはよく知っているが やっば、こんな道化、耐えられるかッ!!

英達は真顔でおちよくってくる譲を睨みながら、立ち去る機会を上手く掴めない自分を恨んだ。

* * *

桐子：最ッ高（爆笑）

GM：何てコンビだよ（笑）。全然、息ピッタリじゃねえ（苦笑）

英達：え、ある意味“イイ”コンビなんじゃん？（笑）

GM：他の人から見るとってことね（苦笑）

英達：そうそう（笑）。本人、片方だけは凄く嫌がっているんだけど（笑）。片方は熱烈に（爆笑）

譲：（しれっと）まあ、なにぶん、“偏愛”ですからな。しかもそっちの方が表（笑）

英達：ところで宇佐美さんは“Project Judgement”にロイス結んでるんだけど、そういうのもアリ？

GM：ええ。不確定なものに対しても結べますよ。

英達：じゃあ、ロイス結んでおこうかな。

“偏愛” 譲の英達に対する感情は「執着／偏愛」であり、ネガティブ感情の“偏愛”を表面に出している（Preplay 参照）。まあ、ポジティブ感情の“執着”が表でも大差ない言動になりそうだが。